# ２．教科に関する調査の結果（概要）

## （１）調査問題の内容、課題等、指導改善のポイント

### ○調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、中学校第２学年までの内容となるようにしている。

（例）■　インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く。

■　読書に関する二つの文章を参考にして、これからどのように本を読んでいきたいかについて考え、読書に関する知識や経験に触れながら自分の考えを書く。

■　「判じ絵」についてまとめているレポートの「『判じ絵』の解読の面白さ」と見出しを付けた部分に示す具体例を選択し、その解読の仕方の説明を書く。

■　古典の原文の中の語句に対応する言葉を、現代語で書かれた文章から抜き出す。

### ○課題等

〔知識及び技能〕

**言葉の特徴や使い方に関する事項**

◇　事象や行為、心情を表す語句について理解することはできている〔 2一 〕。

◆　文脈に即して漢字を正しく書くことに課題がある〔 3二 〕。

**情報の扱い方に関する事項**

◆　情報と情報との関係について理解することに課題がある〔 1二、3三 〕。

**我が国の言語文化に関する事項**

◇　歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことはできている〔 4一 〕。

〔思考力、判断力、表現力等〕

**話すこと・聞くこと**

◇　目的や場面に応じて質問する内容を検討することはできている〔 1一 〕。

◇◆　聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることはできているが〔 1四 〕、話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することに課題がある〔 1三 〕。

**書くこと**

◆　読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることについては、改善の状況が見られるが、引き続き課題がある〔 3一 〕。

◇　自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことについては、改善の状況が見られる〔 3四 〕。

**読むこと**

◆　観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることに課題がある〔 2二 〕。

◇　文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することについては、改善の状況が見られる〔 2三 〕。

◆　文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付けて、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題がある〔 2四 〕。

◆　文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題がある〔 4三 〕。

◇･･･比較的できている点　◆･･･課題のある点　　〔 〕内の記号は、問題番号

## ○指導改善のポイント

〔知識及び技能〕

### 言葉の特徴や使い方に関する事項

**○　漢字を正しく用いる態度と習慣を養う指導の充実**

・　漢字の書きについては、学習指導要領の学年別漢字配当表に示されている 1,026 字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要がある。そのために、国語の授業の中では、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得させるとともに、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことができるよう指導することが大切である。なお、１人１台端末等で文字を入力する際にも適切な漢字を選択することができるよう、変換の際に意味を確認したり、必要に応じて辞書を引いたりするように指導することも重要である。

### 情報の扱い方に関する事項

**○　情報と情報との関係を理解する指導の充実**

・　〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域における指導事項が示す資質・能力を育成するためには、話や文章に含まれている情報と情報との関係を捉えて理解したり、自分のもつ情報と情報との関係を明確にして話や文章で表現したりすることが重要になる。そのために、「原因と結果」、「意見と根拠」、「具体と抽象」などの基本的な情報と情報との関係について理解し、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面で活用できるように指導することが大切である。

〔思考力、判断力、表現力等〕

### 話すこと・聞くこと

**○　話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問する指導の充実**

・　聞いたことを基に自分の考えをまとめるには、何のためにどのような状況で話を聞いているのかを意識し、話の内容を正確に理解することが必要である。その際、必要に応じて記録したり質問したりしながら聞くことが重要になる。話し手に質問する際に、質問の適切な機会を捉えるとともに、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるように指導することが大切である。

### 書くこと

**○　自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く指導の充実**

・　自分の考えが伝わる文章を書くためには、伝えたい自分の考えと、考えを支える根拠を文章の中に記述する必要がある。その際、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認した上で、考えを支える根拠として示す事例等を検討し、考えと事例等との関係を明確にして記述できるように指導することが大切である。

### 読むこと

**○　文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする指導の充実**

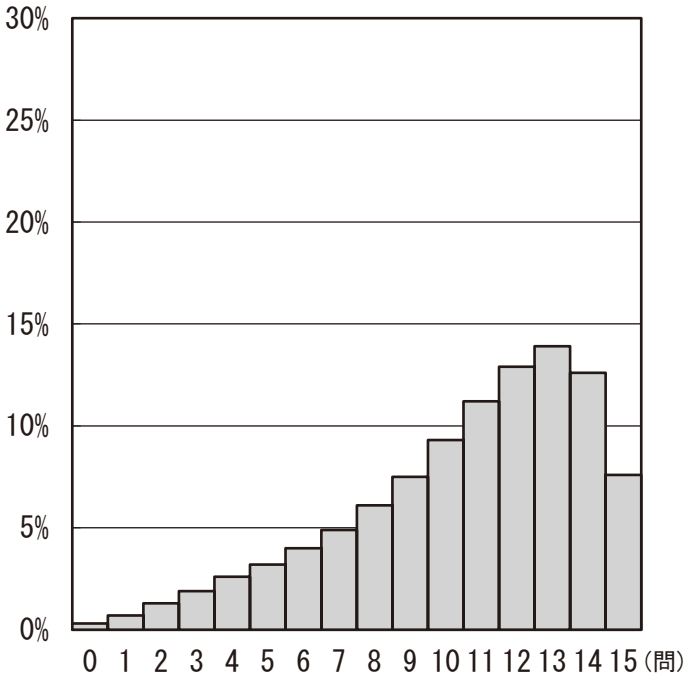
・　文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりするためには、文章の内容を理解するだけでなく、自分がもっている知識や経験と結び付けることによって、理解したことや考えたことをより具体的で明確なものにしていくことが重要である。その際、第２学年〔知識及び技能〕の(3)「エ　本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。」との関連を図り、読書の意義や効用についても理解が深まるように指導することが効果的である。

## （２）集計結果（正答等の状況）

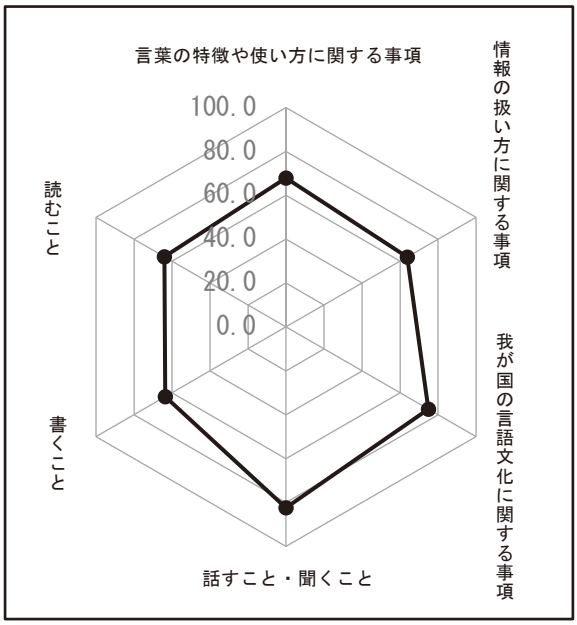
### 【国語】

| 生徒数 | 平均正答数 | 平均正答率 | 中央値 | 標準偏差 | 最頻値 |
|---|---|---|---|---|---|
| 923,267 人 | 10.5 問/15 問 | 70.1% | 11.0 問 | 3.4 問 | 13 問 |

正答数分布グラフ（横軸:正答数、縦軸:生徒の割合）



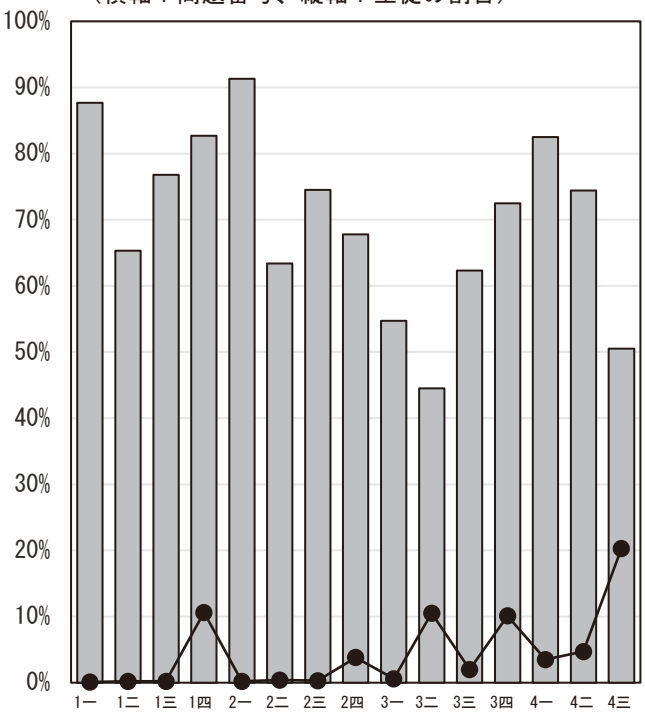

学習指導要領の内容の平均正答率




分類・区分別集計結果

| 分類 | | 区分 | 対象問題数（問） | 平均正答率（%） |
|---|---|---|---|---|
| 学習指導要領の内容 | 知識及び技能 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 2 | 67.9 |
| | | 情報の扱い方に関する事項 | 2 | 63.8 |
| | | 我が国の言語文化に関する事項 | 3 | 74.9 |
| | 思考力、判断力、表現力等 | 話すこと・聞くこと | 3 | 82.4 |
| | | 書くこと | 2 | 63.6 |
| | | 読むこと | 4 | 64.0 |
| 評価の観点 | | 知識・技能 | 7 | 69.7 |
| | | 思考・判断・表現 | 9 | 70.1 |
| | | 主体的に学習に取り組む態度 | 0 | |
| 問題形式 | | 選択式 | 7 | 73.4 |
| | | 短答式 | 4 | 66.0 |
| | | 記述式 | 4 | 68.4 |

問題別正答率「棒」・無解答率「折れ線」
（横軸：問題番号、縦軸：生徒の割合）



問題別集計結果

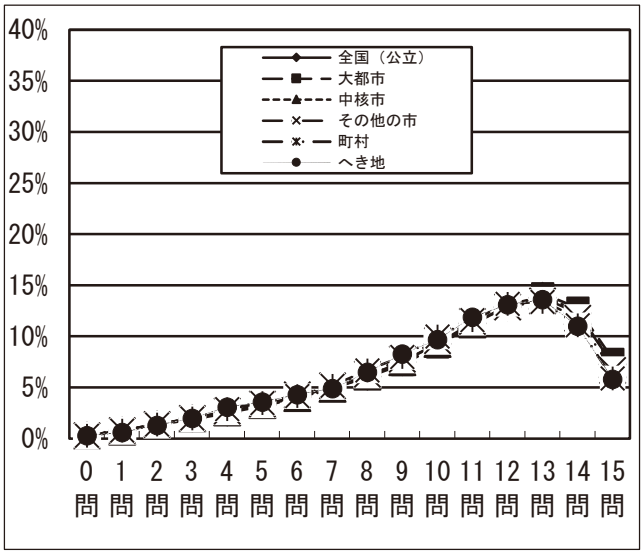
| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 学習指導要領の内容 | | | | | | 評価の観点 | | | 問題形式 | | | 正答率（％） | 無解答率（％） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 知識及び技能 | | | 思考力、判断力、表現力等 | | | | | | | | | | |
| | | | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 情報の扱い方に関する事項 | 我が国の言語文化に関する事項 | 話すこと・聞くこと | 書くこと | 読むこと | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | 選択式 | 短答式 | 記述式 | | |
| 1一 | インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する | 目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる | | | | 1ア | | | | ○ | | ○ | | | 87.7 | 0.1 |
| 1二 | インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する | 意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる | | 1ア | | | | | ○ | | | ○ | | | 65.3 | 0.2 |
| 1三 | 相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する | 話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる | | | | 1エ | | | | ○ | | ○ | | | 76.8 | 0.2 |
| 1四 | インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く | 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる | | | | 1エ | | | | ○ | | | | ○ | 82.7 | 10.6 |
| 2一 | 「落胆する」の意味として適切なものを選択する | 事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる | 1ウ | | | | | | ○ | | | ○ | | | 91.3 | 0.2 |
| 2二 | 二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する | 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる | | | | | | 2エ | | ○ | | ○ | | | 63.4 | 0.4 |
| 2三 | それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する | 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる | | | | | | 1ア | | ○ | | ○ | | | 74.5 | 0.3 |
| 2四 | 自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く | 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる | | | 2エ | | | 2オ | ○ | ○ | | | | ○ | 67.8 | 3.8 |
| 3一 | レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する | 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる | | | | | 1エ | | | ○ | | ○ | | | 54.7 | 0.6 |
| 3二 | 漢字を書く（おし量って） | 文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる | 2ウ | | | | | | ○ | | | | ○ | | 44.5 | 10.5 |
| 3三 | 「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く | 具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる | | 2ア | | | | | ○ | | | | ○ | | 62.3 | 2.0 |
| 3四 | 「『判じ絵』の解読の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解読の仕方を書く | 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる | | | | | 1ウ | | | ○ | | | | ○ | 72.5 | 10.1 |
| 4一 | 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（いひける） | 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる | | | 1ア | | | | ○ | | | | ○ | | 82.5 | 3.5 |
| 4二 | 原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す（いと） | 古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる | | | 2イ | | | | ○ | | | | ○ | | 74.4 | 4.7 |
| 4三 | 現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く | 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる | | | | | | 1エ | | ○ | | | | ○ | 50.5 | 20.3 |

## （３）地域の規模等の状況

○　平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差を見ると、地域の規模等（公立：大都市、中核市、その他の市、町村、へき地）による大きな差は見られない。

［国語］

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）




| | 生徒数 | 平均正答数 | 平均正答率 | 中央値 | 標準偏差 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全国（公立） | 892,738人 | 10.5 / 15問 | 69.8% | 11.0問 | 3.4問 |
| 大都市 | 224,820人 | 10.5 / 15問 | 70.3% | 11.0問 | 3.4問 |
| 中核市 | 205,437人 | 10.5 / 15問 | 69.9% | 11.0問 | 3.4問 |
| その他の市 | 374,120人 | 10.4 / 15問 | 69.1% | 11.0問 | 3.4問 |
| 町村 | 78,199人 | 10.3 / 15問 | 68.6% | 11.0問 | 3.3問 |
| へき地 | 13,912人 | 10.3 / 15問 | 68.6% | 11.0問 | 3.3問 |

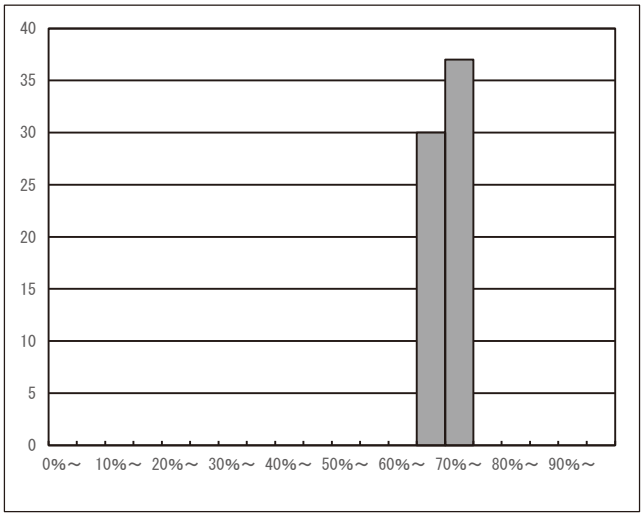
※大都市（政令指定都市及び東京 23 区）、中核市、その他の市、町村の値は、当該地方公共団体の教育委員会が設置管理する公立学校に在籍する生徒の調査結果（正答数）を集計したものである（都道府県立学校は含まない）。
※へき地の値は、へき地教育振興法及び各都道府県の条例（規則）によって指定された学校に在籍する生徒の調査結果を集計したものである。大都市、中核市、その他の市、町村の値に重複する。

## （４）都道府県・指定都市の状況

○　各都道府県・指定都市（公立）の状況については、平均正答率を見ると、全ての都道府県・指定都市が平均正答率の±10%の範囲内であり、大きな差は見られない。

［国語］

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：都道府県・指定都市数）




| 全国（公立）の平均正答率 | 全都道府県市（公立）中、最高平均正答率【全国との差】 | 全都道府県市（公立）中、最低平均正答率【全国との差】 |
|---|---|---|
| 70% | 74%【+4%】 | 65%【−5%】 |

※都道府県は指定都市を除く。全国（公立）の平均正答率は整数値で表示している。

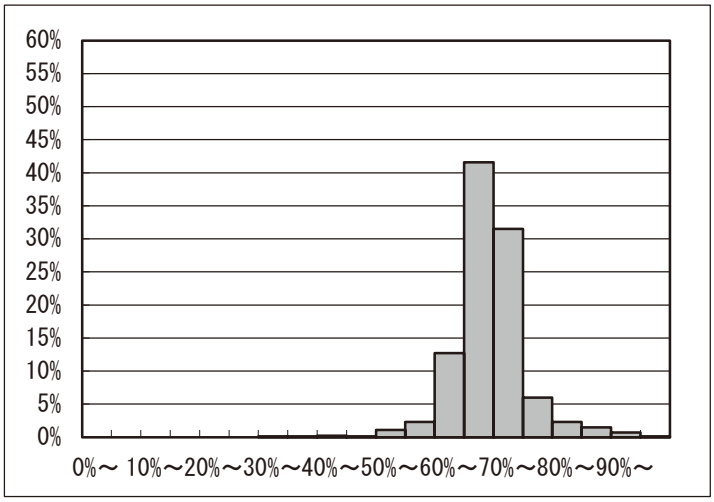
## （５）教育委員会の状況

○　各教育委員会の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、令和４年度と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。

［国語］

| 教育委員会数 | 教育委員会の平均正答数 | 教育委員会の平均正答率 | 教育委員会の中央値 | 教育委員会の標準偏差 |
|---|---|---|---|---|
| 1,789 | 10.4 / 15問 | 69.3% | 69.1% | 5.8% |

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：教育委員会の割合）



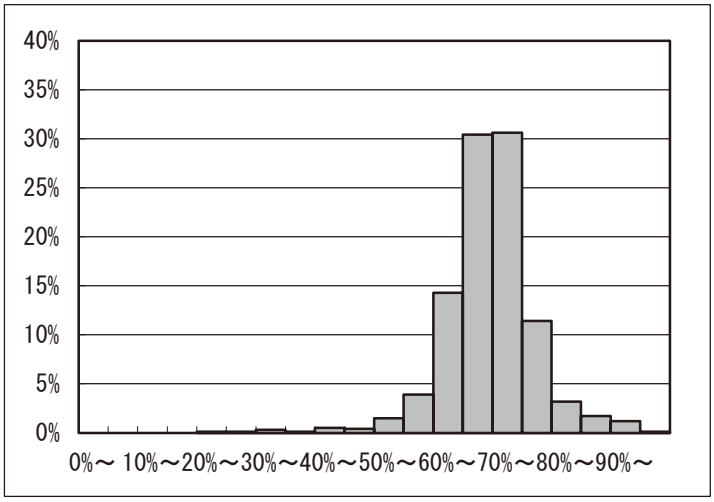

## （６）学校の状況

○　各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、令和４年度と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。

［国語］

| 学校数 | 学校の平均正答数 | 学校の平均正答率 | 学校の中央値 | 学校の標準偏差 |
|---|---|---|---|---|
| 9,699校 | 10.4 / 15問 | 69.5% | 69.7% | 7.9% |

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：学校の割合）

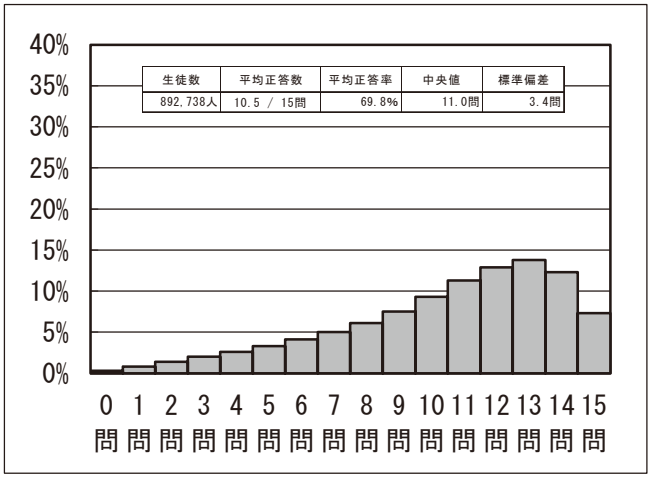


## （７）国・公・私立学校の状況

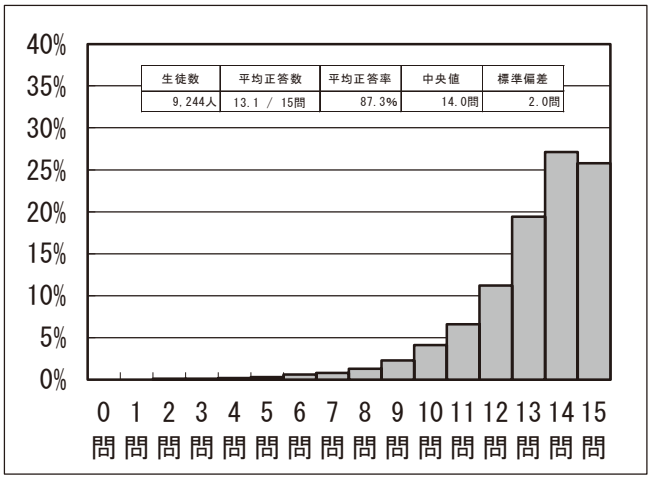
○　国立･私立学校は一般的に入学者選抜を行っていることに留意する必要があるが、平均正答数について見ると、国立・私立学校は、公立学校を上回っている。

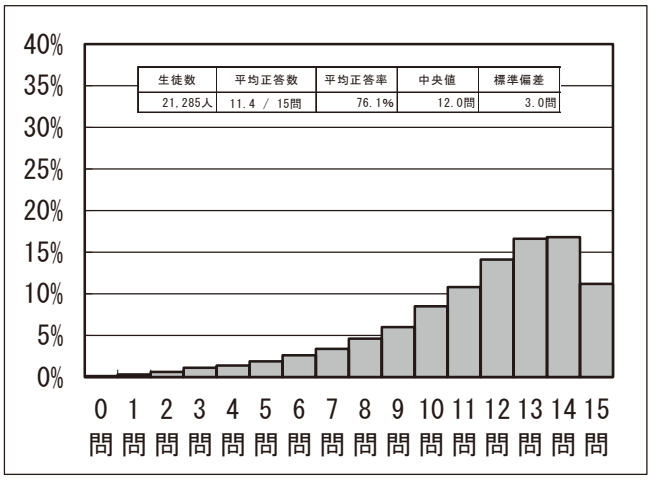
［国語］

＜公立＞　正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）




＜国立＞　正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）




＜私立＞　正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）